

	・配送費用が不要	
--	----------	--

金沢市には、現在ミルク給食の学校は5中学校あり(兼六 小將町 紫錦台 城南 野田)、今後、新規の共同調理場の建設を視野に入れながら、完全給食の実施を目指していく方針である。

しかし、学校給食の調理方式をどの方式にするかは、各方式によるメリットとデメリットを総合的に勘案しながら決定する必要がある、その中でもコスト計算は重要な1要素であることは間違いなく、各方式によるコストを比較しながら検討する必要がある。各方式による調理員の人件費に係わるコスト比較は以下のとおり。

コスト	ア)共同調理場における直営調理員方式	イ)共同調理場における民間調理員方式	ウ)単独調理場における直営調理員方式
直営人件費	510,765,097	-	138,340,255
民間委託料	-	89,216,400	-
計	510,765,097	89,216,400	138,340,255
給食調理数	4,306,056	1,318,090	711,619
1食当たりコスト	119	68	194

今回の外部監査において、上記の3方式について、調理から喫食に到るまでのコスト比較を実施しようとした。しかし、学校に併設されている共同調理場や単独調理場については、光熱水費などの経費が学校に係わるものと一緒になって業者から請求がくるため、調理場部分についての経費を明確に把握することができないとのことであり、調理員の人件費に係わるもの以外のコスト比較を実施することができなかった。(メーター設置コストの観点から個別の契約としなかった)

しかし、他の経費を考慮してもイ)の共同調理場における民間調理員方式が最も低コストであることに変わりがないと考えられる。また、今後の課題として、どの調理場がコスト面で効率的に運営されているかということを経常的に把握できる管理体制の構築が必要と考える。

意 見

中学校の5つのミルク給食校を完全給食校に変えていくにあたり、共同調理場における民間調理員方式が最も低コストであると考えられる。また、今後の課題として、どの調理場がコスト面で効率的に運営されているかということを経常的に把握できる管理体制の構築が必要と考える。

第7節 国際文化課 観光課所管の施設(一部商業振興課、緑と花の課)

①監査要点

金沢市は都市づくりの基本的なテーマとして「金沢の誇るべき貴重な個性の維持・発展と都市基盤の充実により、世界の中で独特の輝きを放つ『世界都市金沢』の実現」を掲げている。このテーマを基本とした都市づくり・7つの目標中の一つに「歴史・文化・伝統を活かしたまちづくり」というものがある。

その役割を担うのが国際文化課と観光課である。国際文化課は文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊等芸術、メディア芸術あるいは伝統芸能に関わる施設を整備し、文化芸術の振興を図り、国内外への発信に努めている。観光課は、金沢の名所旧跡や生活文化・伝統芸能に係わる施設を観光に生かしている。

今回の監査では、各課が所管する主たる施設(下表参照)の利用状況を調査し、公共施設が有効利用されているか、管理業務が効率的に行われているか、業務に関連する法令及び条例を遵守しているかを調べた。

国際文化課所管

金沢市立中村記念美術館
金沢市民俗文化財展示館
金沢市立安江金箔工芸館
金沢市立ふるさと偉人館
泉鏡花記念館
金沢湯涌夢二館
金沢蓄音器館
前田土佐守家資料館
室生犀星記念館
金沢卯辰山工芸工房

(注)
国際文化課所管の公共施設は多岐に及ぶため
金額的影響の大きい以下の施設を監査対象とした。

観光課所管

金沢市老舗記念館
金沢市西茶屋資料館
旧加賀藩士高田家跡
金沢市足軽資料館
長町武家屋敷休憩館
ひがし茶屋休憩館

②監査手続き

- ・ 監査対象施設に関連する法令・条例等を閲覧した。
- ・ 各館の設置目的に関する資料を入手し閲覧した。
- ・ 利用状況に関する資料を入手し閲覧、分析を行った。
- ・ 簡易な行政コスト計算書を作成し、分析を試みた。
- ・ 必要に応じて現場視察を実施した。
- ・ なお平成15年度取得の施設はない

③監査結果(国際文化課)

金沢市立中村記念美術館

故中村栄俊氏収集の美術品をもとに昭和41年開館後、同50年金沢市が寄贈を受け、平成元年には新館を開館した。旧中村邸は昭和61年4月に金沢市指定保存建物に指定された。中村氏収集の茶道美術の名品をはじめ江戸時代の絵画、古九谷、加賀蒔絵、加賀象嵌など、旧家の室内調度を主として重要文化財3点、重要美術品5点、県・市指定文化財各1点を含め約600点を所蔵している。季節毎に年4回の展示替や旧中村邸を会場に春・秋の座敷飾り、春茶会

など、加賀百万石の城下町として栄えた古都金沢の茶道文化と伝統工芸を紹介する美術館である。

所在地	本多町3丁目2番29号
敷地	10,135.3㎡
鉄筋コンクリート2階建瓦葺 延床	913㎡
施設内容	展示室、休憩室、会議室、收藏庫、旧中村邸、茶室等(耕雲庵・梅庵)
主な收藏品	茶道美術品、古九谷、加賀蒔絵、加賀象嵌
取得価額	301,800千円(平成元年)

金沢市民俗文化財展示館

石川県の有形文化財であるこの建物は、明治32年(1899年)に石川県立金沢第二中学校として建てられた。教会を模した尖塔のある西洋風の木造建築は、「三尖塔校舎」の愛称で、今も市民から親しまれている。昭和53年に民俗文化財展示館として開館し、金沢の都市文化の高さを示す職人道具の各種をはじめとした9,800件2万点余りの品物を收藏している。展示室では、基本的な生活の中で衣・食・住に関するもののほか、金沢の職人道具や米作り、子供に関する展示を行っている。四季毎に年4回展示品を入れ替えている。

所在地	飛梅町3-31
敷地	621.6㎡
木造2階建て瓦葺 延床	1210.26㎡
施設内容	展示室5室 收藏室6室 休憩室等
主な收藏品	職人道具をはじめ生産・生業の用具、一般の生活用具、農漁具
取得価額	県より移管のため、取得価額 0円

金沢市立安江金箔工芸館

安江金箔工芸館は、金沢で一、二といわれた広物の金箔打ち立て師であった故安江孝明氏が、昭和49年5月私財を投じて金箔に関する工芸館を建設し、彼の収集物である美術工芸品や金箔製造道具を一般に公開したのが始まりである。金箔に関する工芸館として全国でも珍しい博物館として高い評価を得て、昭和57年博物館法による美術館施設として登録された。昭和60年6月、土地、建物、美術工芸品、製箔道具、製品見本及び箔打機等が本人の申し出により金沢市に寄贈されることになった。

所在地	北安江1丁目5番10号
敷地	1,212.03㎡
鉄筋コンクリート2階建 2棟 延べ床	721.38㎡
施設内容	展示室3室 実演室 1室 茶室 1室 休憩室3室金箔工芸品、製箔道具、 工程見本の展示と箔移しの実演あり。
取得価額	36,000千円(昭和55年)

金沢市立ふるさと偉人館

木村栄、鈴木大拙、高峰譲吉、藤岡東圃、三宅雪嶺の素顔、業績などを広く紹介し、後世に伝える動的な学習館として平成5年11月に開館した。記載した5人についての資料や著作の展示、書斎の再現、映像機器やグラフィックパネルによる解説などにより、その生涯や業績などを広く紹介する博物館になっている。また、平成16年春には、谷口吉郎、中西悟堂、八

田與一の展示コーナー等を新たに設けた。

所在地 下本多町6番丁18番地4

敷地 1750㎡

鉄筋コンクリート3階建 延べ床1,830.07㎡

施設内容 常設展示室、企画展示室、講座室、収蔵庫、学習コーナー等

取得価額 466,497千円(平成5年)

泉鏡花記念館

文豪泉鏡花の生家跡に明治から昭和にかけ建築された、老舗和菓子店の木造2階建て母屋と土蔵3棟を平成10年に金沢市が購入した。それを改修・整備し、泉鏡花の資料等を展示する記念館として平成11年11月に開館した。

所在地 尾張町2丁目12番7号

敷地 669.82㎡

木造2階建瓦葺 続き棟土蔵3棟 延べ床 431.09㎡

施設内容 展示室3室 映像室、珈琲ショップ等

取得価額 159,995千円(平成11年)

金沢湯涌夢二館

大正ロマンを代表する画家竹久夢二がその最愛の女性・笠井彦乃と幸せな時間を過ごした地・湯涌に夢二の人間性や彼の芸術の世界を追求することを目的として、平成12年4月に開館した。夢二関係資料を展示する他、ミニシアター、音声ガイド機器による展示解説なども行っている。

所在地 湯涌町イ144-1

敷地 1453㎡

鉄筋コンクリート2階建 延床 806㎡

施設内容 展示室2室 ミニシアター ショップ

主な収蔵品 夢二の作品、遺品、周囲の人物との関わりを示す資料等

取得価額 415,170千円(平成11年)

金沢蓄音器館

故八日市浩志氏のコレクションを譲り受けて、平成13年7月開館。参加型で楽しめる装置により蓄音器の音のメカニズムを紹介するほか、蓄音器の聞き比べ実演を行い、実際にSP盤を鑑賞することで、深く関心を持てるよう配慮している。

所在地 尾張町2丁目11番21号

敷地 436.49㎡

鉄筋コンクリート3階建 延床618.58㎡

施設内容 展示室、収蔵庫、多目的ホール、ミュージアムショップ

主な収蔵品 蓄音器、SPレコード等

取得価額 250,750千円(平成13年)

前田土佐守家資料館

加賀八家の一つである前田土佐守家に関わる展示を通じて金沢の歴史と文化を後世に伝えていくとともに、片町～長町を繋ぐにぎわいの創出拠点とすることを目的として、平成1

4年4月に長町武家屋敷界隈の一角に開館した。土佐守家に伝わる9,000点を超える資料を収蔵、その一部を公開している。

所在地 片町2丁目10番17号

敷地 1,805㎡ 建築面積 634㎡ 延べ床 1,099㎡

鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地下1階地上2階

施設内容

展示室2室、庭園鑑賞室、情報・映像コーナー、休憩ラウンジ、事務室、会議室、収蔵庫

主な収蔵品

織田信長黒印状、豊臣秀吉自筆書状、黒漆塗黒糸威二枚胴具足、芳春院自筆書状

取得価額 355,760千円(平成13年)

室生犀星記念館

金沢三文豪の一人、室生犀星に関する資料等を収蔵・展示する記念館。彼が生涯こよなく愛した犀川のほとりにある生誕地に犀星に関する様々な情報を集積・発信する拠点として、平成14年8月に開館した。

所在地 千日町3番22号

敷地 604.5㎡

鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地下1階、地上2階

建築面積 274㎡ 延べ床 598.5㎡

施設内容 展示室、休憩コーナー、ショップ、研究・会議室、収蔵庫

主な収蔵品 遺品類、初版本、短冊・軸類、直筆原稿・書簡類

取得価額 308,745千円(平成14年)

金沢卯辰山工芸工房

金沢卯辰山工芸工房は、本市の伝統工芸の継承発展を図るため、加賀藩御細工所の“工芸の振興”という精神を現代に生かす工芸の総合的施設として市政100周年を記念して設立された。本館・展示館等は、工芸作品、技法・素材に関する資料や加賀藩御細工所に関する史料等を展示公開している。交流を深めるための茶室や和室を開放するなど、工芸を多角的に考え、探る場となっている。工房棟は、陶芸・漆芸・染・金工・ガラスの5工房が用意されており、工芸作家を養成し、作品資料を展示している。また、研修者の創作活動も見学できる造りとなっている。

所在地 卯辰町ト10番地

建築面積 本館・展示館 1,355.78㎡

工房棟 2,891.55㎡

施設内容

本館・展示館 工芸作品、技法・素材に関する資料や加賀藩御細工所に関する史料等を展示公開している。

工 房 棟 陶芸、漆芸、染、金工、ガラスの5工房があり、工芸の振興に寄与する人材(技術研修者)を育成するとともに、市民工房が開設され、工芸関係者の交流の場となっている。

取得価額 1,609,788千円(平成元年)

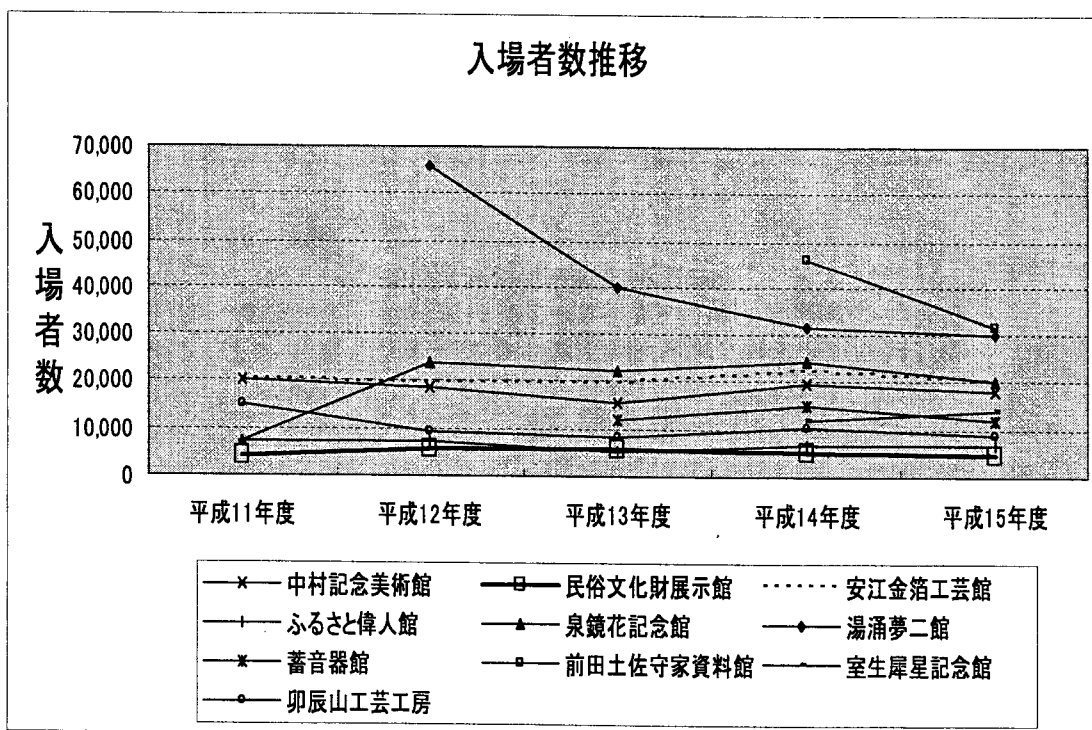
国際文化課所管施設の入場者推移

平成11年度から平成15年度までの、各施設の入場者数の推移を示すと次のとおり。

(単位 人)

施設名	中村記念 美術館	民俗文化財 展示館	安江金箔 工芸館	ふるさと 偉人館	泉鏡花 記念館
開館年度	H11年11月	S53年6月	S60年寄贈	H5年11月	H11年11月
平成11年度	20,037	4,215	19,967	7,441	7,378
平成12年度	18,740	5,923	19,570	7,404	23,616
平成13年度	15,751	5,469	19,697	5,428	22,541
平成14年度	19,605	5,298	22,159	6,992	24,516
平成15年度	18,372	4,560	20,066	6,614	20,415

	湯涌夢二館	蓄音器館	前田土佐守家 資料館	室生犀星記念 館	卯辰山工芸工 房
開館年度	H12年4月	H13年7月	H14.4月	H14.8月	H1.10月
平成11年度					15,245
平成12年度	65,874				9,322
平成13年度	39,827	11,788			8,538
平成14年度	31,636	15,072	46,015	12,137	10,142
平成15年度	30,136	12,063	31,609	13,788	8,668



湯涌夢二館については、平成12年度の入場者数が60,000人を超える高い入場者の状況となっている。平成10年度に近接する湯涌温泉総湯白鷺の湯がリニューアルオープンされた。夢二館の開館年度はこの温泉入湯者との相乗効果及び開館初年度効果があいまって高い入場者数となったと考えられる。また、平成14年度は、ほとんどの施設で前年の入場者数を上回っている。これは、平成14年度にNHK大河ドラマ「利家とまつ」の放映もあり、地域住民及び観光客の藩政期に対する興味が高まったため、これらの観光施設への来館者の増加に

つながったものと思われる。特に、前田土佐守家資料館は開館初年度との相乗効果で40,000人を超える入場者数となっている。

このような施設の開館初年度の入場者数は、初年度ゆえの注目度、話題性によってある程度確保されるが、2年目以降は再来者数が確保されない限り減少する傾向となる。

そこで、市の担当課で施設の趣旨に合致した様々な企画展が開催されることになる。以下各施設で平成15年度に開催された企画展・特別展を概括する。

中村記念美術館	四季展(春・秋・冬)、中村コレクション名品店、春の市民茶会ほか
安江金箔工芸館	四季展(春・夏・秋・冬)、箔打ち実演公開ほか
泉鏡花記念館	所蔵品展、企画展(鏡花の巡礼街道展)ほか
湯涌夢二館	収蔵品展、特別展(3周年記念特別展、夢二が見た明治・大正のファッション)ほか
前田土佐守家資料館	企画展(雅堂文庫展、歴史資料展、前田土佐守家と武芸ほか)
室生犀星記念館	企画展「犀星と萩原朔太郎」「挿絵で読む杏っ子の世の世界」ほか

コスト分析

各文化施設の運営上の効率性を概括してみるため、簡易行政コスト計算書を作成した。行政コスト計算書とは、地方公共団体が行政サービスの提供のためにどのような活動をしたのかについて、資産形成につながらないコスト面に着目して把握するものである。この行政コスト計算書を分析に用いることにより、行政活動の効率性や合理化等の状況の把握、他団体との比較ができるようになると一般的には理解されている。この文化施設の簡易行政コストの作成にあたっては、以下のルールにより作成した。各文化施設の収支決算書を基本にして、これに減価償却費相当額を加算した。減価償却費相当額は取得価額から見積残存価額(取得価額の10%)を控除した金額を単純に耐用年数で除すという定額法的ルールにより算定した。あくまで簡易な分析のための作成であるため、退職給与引当金繰入、不能欠損処理費用、移転支的コストまでは考慮していない。

平成15年度 簡易行政コスト計算書

	中村記念美術館	民俗文化財展示館	安江金箔工芸館	ふるさと偉人館	泉鏡花記念館	金沢湯涌夢二館	金沢著音器館	前田土佐守家資料館	室生犀星記念館	卯辰山工芸工房
完成年	H1	M32	S49及びS55	H5	H11	H12	H13	H14	H14	H1
行政コスト										
人にかかるとコスト	24,608	19,849	19,600	21,644	21,147	26,411	19,670	27,553	14,882	106,861
物にかかるとコスト	24,855	7,162	11,920	28,542	12,555	22,097	19,929	24,997	16,400	66,338
(物件費・維持管理費)	20,328	7,162	11,380	21,545	10,155	15,870	16,168	19,661	11,769	42,191
(減価償却費相当額)	4,527	0	540	6,997	2,400	6,228	3,761	5,336	4,631	24,147
移転支的コスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他のコスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行政コスト合計	74,317	34,173	43,440	78,728	46,258	70,605	59,529	77,547	47,683	239,537
収入項目										
使用料・手数料等	4,168	0	3,486	414	4,083	7,213	2,074	6,820	2,564	1,009
使用料・手数料行政コスト	6%	0%	8%	1%	9%	10%	3%	9%	5%	0%

(参考)取得価額	301,800	0	36,000	466,497	159,996	415,170	250,750	355,760	308,745	1,609,788
施設延べ床面積 m ²	913	1210	1212	1830	670	806	619	1099	599	4247
利用人数	17,946	4,419	19,390	6,569	20,101	30,020	11,642	30,659	13,903	8,556
1日あたりの利用人数	60	15	65	22	67	100	39	102	46	29
行政コスト/利用人数	4,141	7,733	2,240	11,985	2,301	2,352	5,113	2,529	3,430	27,996
人に係るコスト/利用人数	1,371	4,492	1,011	3,295	1,052	880	1,690	899	1,070	12,490
物に係るコスト/利用人数	1,385	1,621	615	4,345	625	736	1,712	815	1,180	7,753
物に係るコスト/延床面積	27,223	5,918	9,835	15,595	18,744	27,416	32,218	22,745	27,403	15,619

(注)1日あたりの利用人数は実稼動日数を300日として算出した。

使用料・手数料を行政コストで除した比率について、民俗文化財展示館、ふるさと偉人館及び卯辰山工芸工房の比率が低くなっている。民俗文化財展示館は、無料施設であり、収入がない。ふるさと偉人館については、ふるさと学習のため高校生以下の利用が多く、無料利用者が多くなっているためである。卯辰山工芸工房は、金沢の優れた伝統工芸の継承発展と文化振興を図るという目的のための施設であり、その目的のためのコストがかかっているため、低い数値となっている。上記の理由より、利用人数あたりの行政コストについても、ふるさと偉人館及び卯辰山工芸工房は高い数値となっている。

以上国際文化課所管の施設を監査したが、以下の点を除いて問題はなかった。

各施設の茶室について

金沢市管轄の茶室の主なものとして以下のものがある。

概要項目	松声庵	中村記念美術館 耕雲庵	中村記念美術館 梅庵	中村記念美術館 旧中村邸茶室
住所	高岡町10番25号	本多町3丁目2番29号	本多町3丁目2番29号	本多町3丁目2番29号
規模	敷地面積 394.56m ² 建物 木造瓦葺2階建 約188m ²	敷地 本多公園内 建物 木造瓦葺平屋建 約85m ²	建物 木造瓦葺平屋建 約34m ²	建物 木造瓦葺2階建 約199m ²
構成・外観等	草庵5畳本勝手	草庵、四畳半本勝手入母屋造り	書院 八畳本勝手	書院 1階 7畳半10畳控えの間12畳 2階 二十七畳逆勝手船櫃造り 昭和61年金沢市指定保存建造物に指定
開館時間	午前9時～午後5時	午前9時～午後4時	午前9時～午後4時	午前9時～午後4時
貸室使用料	全室 午前 3時間 2,620円 午後 4時間 3,150円 茶室のみ 午前 3時間 1,050円 午後 4時間 1,260円	午前 3時間 2,625円 午後 3時間 2,625円 全日 6時間 5,250円	午前 3時間 2,625円 午後 3時間 2,625円 全日 7時間 5,250円	1階 午前 3時間 2,835円 午後 3時間 4,200円 全日 7時間 7,035円 2階 午前 3時間 4,725円

				午後 3時間 7,035円
				全日 7時間 11,760円

利用状況	松声庵		中村記念美術館 耕雲庵		中村記念美術館 梅庵		中村記念美術館 旧中村邸茶室	
	利用日数	利用人数	利用日数	利用人数	利用日数	利用人数	利用日数	利用人数
13年度	48	585	71	1,100	18	55	47	5,500
14年度	62	1,461	108	1,200	12	8	52	2,600
15年度	61	1,038	100	2,100	9	47	53	4,600
開館日数	随時(使用申請による)		開館日数		開館日数		開館日数	
13年度	火、木、土、日		325		325		325	
14年度	一般見学可		325		325		325	
15年度	(茶室利用時を除		326		326		326	

概要 項目	旧園邸 松向庵	文化ホール内茶室 「閑清庵」	卯辰山工芸工房内 茶室「流芳苑」
住 所	西町3番丁17-7	高岡町15番1号	卯辰町10番地
規 模	建物 木造瓦葺2階建約 128.27㎡(茶室部分)	文化ホール内1階 収容人員30名 139㎡	茶室20人程度 面積 約50㎡
構成・ 外観等	草庵三畳台日本勝手 入母屋造り(松向庵は公 開のみ使用不可)	文化ホール内の一室と してある。	卯辰山工芸工房内の一 室としてある。
開 館 時 間	午前9時～午後5時	午前9時～午後10時	午前9時～午後4時半
貸室使 用 料	4室以下 3時間使用 2,650円 全日使用 5,300円 全室使用 3時間使用 5,300円 全日使用 10,600円	全室使用 午前3時間 7,875円 午後4時間 12,180円 夜間4時間 13,755円 全日13時間 29,190円 立会茶室を除き使用 午前3時間 6,300円 午後4時間 9,660円 夜間4時間 10,920円 全日13時間 23,100円	午前3時間 1,570円 午後3.5時間 2,620円

利用状況	旧園邸 松向庵		文化ホール内茶 室 「閑清庵」		卯辰山工芸工房内 茶室「流芳苑」	
	利用日数	利用人数	利 用	利用人数	利用日数	利用人数
13年度	29	487	20	1,762	13	341
14年度	29	913	15	885	4	58
15年度	26	1,370	18	1,798	6	76
開館日数	随時(使用申請による)		開館日数		開館日数	

13年度	土、日一般見学可(茶会 時を除く)	300	302
14年度		326	262
15年度		329	269

中村記念美術館の利用人数は、利用者の自己申告による概数となっている。他に耕雲庵・梅庵・旧中村邸の共通利用者は平成13年度 200人、平成14年度 2,900人、平成15年度1,500人であった。

さらに、平成16年10月に開館した金沢21世紀美術館において、金沢の茶室復興事業がすすめられている。これは、金沢に残る名茶室2棟、松涛庵、山のお茶室を金沢21世紀美術館敷地内に移築整備していくというものである。金沢21世紀美術館と一体的に使用してもらう、美術館と関わりあいを持つという意図のために、囲いを作らず、美術館とは区切らないよう整備している。

その一方、上表では記載されていないが、卯辰山工芸工房内の茶室については、平成12年度において1,431名の利用者があった。しかし、平成15年度は76名にまで落ち込んでいる。国際文化課担当者からのヒアリングによるならば、卯辰山工芸工房内茶室の利用者の減少理由として以下のことが考えられる。

- ・ 市内の茶室等の数が充実してきたため市内中心部から比較的距離のある卯辰山工芸工房内の茶室まで使用したいという利用者の需要が少なくなってきた。
- ・ 卯辰山工芸工房にはもともと駐車場が少なく、団体利用を考えると、使いづらい。従って、市内の茶の関連団体に茶室の利用を呼びかけても、利用状況が改善するとは考えづらい状況にある。

その他の金沢市の茶室について

- ・ 老舗記念館 茶室(観光課)
見学は可能だが呈茶サービスはしていない
- ・ 長町研修塾 匠心庵(商業振興課)

現在、(社)金沢職人大学校が、金沢市から業務委託を受けて匠心庵の保守・管理を行っている。これは、職人大学校の第1期生が研修塾の修復作業を実施した経緯で受託先になっているとのことであるが、職人大学校としては、その後、同所で独自の自主事業等は特段行っていない。

施設は一般公開されているものの、無料で開放されているのは庭園だけであり、有料となっている建物の中の和室や茶室は、下記の利用状況から判断すると、ほとんど利用されていない状態にある。

過去3年間の市民の利用状況は、以下のとおり。

	H13年度	H14年度	H15年度
利用者数(人)	502	1,188	175
利用収入(円)	87,000	91,000	36,000

なお、建物内部の和室と茶室の使用料は以下のとおり。

使用室	午前9時~12時、 午後1時~4時
茶室	2,100円
和室	1,050円

- ・ 休憩館<旧高峰家・旧検事正官舎>(黒門緑地 緑と花の課)

平成7年まで、金沢地方検察庁検事正官舎の敷地であったものを、平成13年官舎の一部と、その土塀を廻らす屋敷構えを保存するとともに、アドレナリン、タカジアスターゼの創製で世界的に知られる高峰讓吉博士ゆかりの家屋を移築し、公園として整備されたもの。旧高峰家は、明治5年、加賀藩の御典医(ごてんい)であった讓吉の父が建てた居宅の一部で、書斎、茶室として利用された「離れ」にあたる。

規模	木造平屋建 152.37㎡	
構成・外観等	黒門前緑地内の休憩館として設置されている。	
開館時間	午前9時～午後5時	
貸室使用料	午前(9時～正午)	1,050円
	午後(1時～5時)	1,260円
	全日(9時～5時)	2,310円

旧高峰家・旧検事正官舎				
利用状況	利用日数	利用人数	開館日数	見学者数
13年度	19	680	208	15222
14年度	56	2359	359	21767
15年度	39	1744	360	17974

金沢市以外の団体等が所有する市内の茶室には下表のものがある。

施設名	名称	エリア	見学	呈茶	庭園
兼六園	時雨亭	金沢・兼六園	△	△	○
	三芳庵				
	夕顔亭				
	内橋亭				
	成巽閣				
西田家庭園「玉泉園」	瀧雪亭 寒雲亭	金沢・兼六園	○	○	○
宝円寺	對青軒	金沢・小立野			○
天徳院	茶室	金沢・小立野	○	○	○
妙立寺(忍者寺)	霞の間 大名茶室	金沢・寺町	○		
武家屋敷跡「野村家」	不莫庵	金沢・長町	○	○	○
寺島蔵人邸跡	乾泉亭 黄松琴亭	金沢・ひがし茶屋周辺	○	○	○
大樋美術館		金沢・ひがし茶屋周辺		○	
心蓮社	来迎舎 竹林庵	金沢・ひがし茶屋周辺	○		○
月心寺	直心庵 暁雲亭	金沢・ひがし茶屋周辺	○	○	○
銭屋五兵衛記念館	拾翠園	金沢・金石	○		

以上金沢市内には多くの茶室がある。金沢市の茶室が12箇所(21世紀美術館の2茶室を含む)、その他県やお寺等が所有し公開しているもの(呈茶をしていないものを含む)が11箇所ある。市内の茶道愛好家や観光客が利用するとしてすでに十分すぎる茶室があると思われる。茶室全体を同一の課で管理し、金沢市ホームページへの一括記載をするなどして、茶室の利用をもっと促進すべきである。一方で以下の茶室については茶室自身の利用方法の整理も視野にいれる必要がある。

指摘事項

老舗記念館内茶室

H15年度までは、無料施設で月平均1万人以上の利用者があったが、H16年度より有料化したところ月平均2,500人程度に激減している。観光バスの駐車場に隣接しており、無料ならばの見学者であったように思われる。茶室は建物と一体となった当時の暮らしを紹介する展示物の1つであり、市民や観光客の利用を想定していない。老舗の外観に比し、施設内部の町民文化の展示に集客力がないとも考えられ、施設全体の中で、より良い展示や茶室利用のあり方を再検討すべきである。

長町研修塾内匠心庵

周辺は多くの観光客が訪れるところであるが、現状は利用が少ない。職人技術の紹介の場として、利用促進に努められたい。また、金沢職人大学校の研修施設としての利用もなお一層進められたい。

卯辰山工芸工房内茶室

卯辰山工芸工房茶室は、日本独特の文化である茶道を取り入れ、工房生の工芸の創造活動の一助として建築されたもの。平成15年度、茶室利用者は76人となっており、一般の茶室利用者は非常に少ない。工房見学者や一般利用者が立ち寄りやすいもてなしの形態や内装を検討し利用率の向上を図る必要がある。

意 見

金沢市内には多くの茶室がある。金沢市の茶室が12箇所(21世紀美術館の2茶室を含む)、その他県やお寺等が所有し公開しているもの(呈茶をしていないものを含む)が11箇所ある。市内の茶道愛好家や観光客が利用するとしてすでに十分すぎる茶室があると思われる。茶室全体を同一の課で管理し、金沢市ホームページへの一括記載をするなどして、茶室の利用をもっと促進すべきである。

④監査結果(観光課)

金沢市老舗記念館

金沢市老舗記念館は、藩政時代からの薬種商であった「中屋薬舗」の建物を昭和62年金沢市が中屋家から寄附を受け、文化財的に価値のある外観を保存し、藩政時代の商家の面影を残すみせの間などを復元するとともに、伝統的町民文化の展示施設として平成元年4月に開館したものである。

現在の建物は、木造2階建てで1階にみせの間、おえの間、茶室、座敷、書院、事務室があり、2階は金沢の伝統的町民文化を紹介する展示場となっている。金澤老舗百年會会員店の生活諸道具の展示及び、金沢の婚礼模様、工芸菓子が展示されている。

所在地 金沢市長町2丁目2番45号

敷地 長町研修館敷地 (1,106㎡) 内
延床面積427㎡
取得価額 78,800千円
観覧料 大人100円 (H16年4月より)、高校生以下 無料

館の管理状況

平成15年度までは、無料施設であったため、施設の管理を財団法人金沢文化振興財団へ委託していた。しかし、平成16年度から有料化したこともあって、入場料収入の管理を適正に行うため、その管理を金沢市直営の管理(担当課:観光課)とした。

金沢市西茶屋資料館

「にし茶屋街」の一角に建つ西茶屋資料館は、平成8年4月開館。お茶屋「吉米楼」(島田清次郎の小説「地上」の舞台となったところ)跡地に当時の造りを再現したもので、1階には、島田清次郎の波乱に富んだ人生を物語る多くの資料を展示している。

所在地 金沢市野町2丁目25番18号
敷地 205㎡
延べ床153㎡
取得価額 45,217千円

館の管理の状況

施設の管理について、平成15年度までは、財団法人金沢文化振興財団へ委託していた。しかし、平成16年度から、他の観光課所管施設と同様に金沢市直営の管理(担当課:観光課)として、観光ボランティアが常駐し、周辺の案内も行っている。法令に従い、消防設備保守点検を受けているが、点検の結果異常なしの報告を受けている。

旧加賀藩士高田家跡

加賀藩の藩士であった高田家の屋敷跡に、中級武士の役割や暮らしを再現したもので平成10年4月開館。同時に大野庄用水を引き入れた池泉回遊式庭園を整備し公開している。

所在地 金沢市長町2丁目6番1号
敷地 829㎡
長屋門 64㎡
取得価額 25,657千円

入場料 無料

館の管理の状況

施設の管理について、平成15年度までは、財団法人金沢文化振興財団へ委託していた。しかし、平成16年度より、他の観光課所管施設と同様にその管理を金沢市直営の管理(担当課:観光課)とした。法令に従い、消防設備保守点検を受けているが、点検の結果異常なしの報告を受けている。

金沢市足軽資料館

現在の幸町辺りには、かつて早道飛脚足軽の組屋敷があった。そこに残されていた屋敷二軒を長町界限へ移築して当該資料館を整備した。資料館のうちの一軒「清水家」。さらに同家に伝わる文献資料の一部も公開し「職務・武術・世襲・教養」の四テーマで、またもう一軒の「高西家」では、足軽の歴史や加賀藩の足軽について「組織・暮らし・居住地・住居」の四テーマで解説している。

所在地 金沢市長町1丁目9番3号
敷地 1,165㎡
延床面積 清水家115㎡、高西家119㎡
取得価額 57,680千円

入場料 無料

館の管理の状況

施設の管理は、平成15年度までは、財団法人金沢文化振興財団へ委託していた。しかし、平成16年度より、他の観光課所管施設と同様にその管理を金沢市直営の管理（担当課：観光課）とした。法令に従い、消防設備保守点検を受けているが、点検の結果異常なしの報告を受けている。

長町武家屋敷休憩館

長町武家屋敷界隈の観光客の休憩所として、平成14年2月開館。観光パンフレット等を配置、周辺案内パネル、休憩用テーブル・椅子、トイレ及び喫煙スペースを設置している。外壁は土塀とし、長町武家屋敷界隈の雰囲気と同調させている。観光ボランティアガイドが常駐し、周辺を案内する。

所在地 金沢市長町2丁目4番36号
敷地 428㎡
延べ床 131㎡
取得価額 81,585千円

入場料 無料

館の管理の状況

従来より、金沢市観光課の直営となっている。

ひがし茶屋休憩館

江戸末期の町家を復元して、平成16年5月から公開したものである。職人大学校が明治期の姿に修復した。観光客の休憩所として位置付け、観光パンフレット等の配置及び、周辺案内パネルを設置している。また、観光ボランティアガイドが常駐し、要望に応じて、周辺のひがし茶屋街の案内を行っている。1階は公開しているが、2階は非公開としている。平成17年秋ごろに金沢市の指定文化財に指定予定である。

所在地 金沢市東山1丁目5番14号
敷地 143.14㎡
木造2階建鋼板葺き 延床面積 165.55㎡
取得価額 40,249千円

館の管理の状況

金沢市観光課の直営となっている。

平成16年度開館事業であり、平成15年度の収支実績がない。但し、平成17年度より金沢市指定文化財に指定予定であり、自動火災報知設備設置義務が生じるため、自動火災報知設備を設置する予定となっている。